

EU Indicators

欧州経済指標コメント：2月ユーロ圏消費者物価（速報）

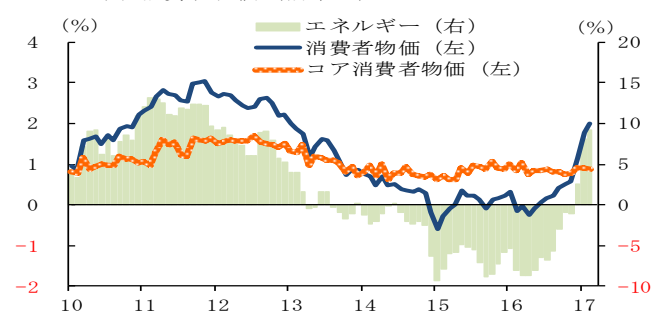
発表日：2017年3月3日（金）

～目標到達もここが一旦のピークか～

第一生命経済研究所 経済調査部
 主席エコノミスト 田中 理
 03-5221-4527

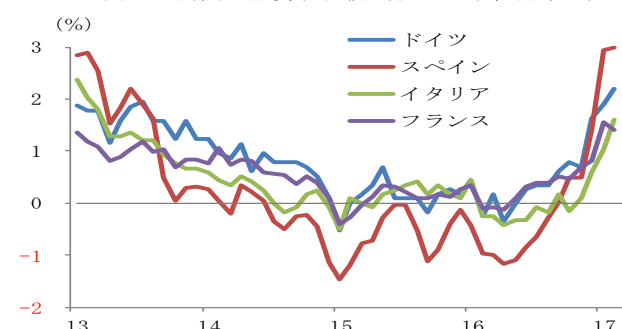
- ・ 2日に発表された2月のユーロ圏の消費者物価の速報値は、前年比+2.0%と前月の同+1.8%から加速し、2013年1月以来となるECBの掲げる「2%をやや下回る」中期的な物価安定水準を達成した。速報段階で入手可能な内訳は、コア物価（食料・アルコール飲料・たばこ・エネルギー除く）が同+0.9%と3ヶ月連続で同率の伸び、エネルギー価格（前月：同+8.1%→今月：同+9.2%）と食料・アルコール飲料・たばこ価格（同+1.8%→同+2.5%）の上昇率加速が全体の計数を押し上げた。
- ・ 速報段階で入手可能な国別計数は、フランス（同+1.6%→同+1.4%）で鈍化した一方、ドイツ（同+1.9%→同+2.2%）、イタリア（同+1.0%→同+1.6%）、スペイン（同+2.9%→同+3.0%）で加速。ここから逆算すると、4ヶ国を除くユーロ圏も加速した模様（同+1.6%→同+2.0%）。
- ・ 堅調な景気回復や雇用情勢、ヘッドラインのインフレ加速にもかかわらず、これまでのところコア物価の安定推移が続いている。原油先物価格から判断して、エネルギー価格の前年比での押し上げは2月がピークとなる模様で、5月以降は押し上げ幅が明確に縮小する可能性が高い。このところの食料品価格の上昇も野菜産地での天候不順が影響したもので、徐々に落ち着いてくることが予想される。
- ・ 物価目標到達でECBの早期緩和観測が高まりやすい状況にあるが、コア物価の安定が続いており、エネルギーや食料品の押し上げ剥落後のインフレ動向を見極めることを理由に、9日のECB理事会ではひとまず様子見を貫く可能性が高い。コア物価の上昇率が徐々に高まることを確認したうえで、年後半に入ると2018年以降のテーパリング開始の地ならしを始める展開を予想する。

■ユーロ圏：消費者物価（前年比）



注：コア物価は食料・たばこ・アルコール・エネルギー除く
 出所：Eurostat

■ユーロ圏：主要国の消費者物価（統一基準、前年比）



出所：Eurostat

■ユーロ圏の消費者物価（%）

	2016					2017									
	1Q	2Q	3Q	4Q		6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	
消費者物価（前期比）	-0.4	0.4	0.3	0.4	0.4	0.2	0.0	-0.0	0.1	0.2	0.0	0.4	0.3	0.1	
（前年比）	0.0	-0.1	0.3	0.7	0.7	0.1	0.2	0.2	0.4	0.5	0.6	1.1	1.8	2.0	
コア消費者物価（前期比）	1.0	0.8	0.8	0.8	0.8	0.9	0.9	0.8	0.8	0.8	0.8	0.9	0.9	0.9	
（前年比）	0.8	0.9	1.1	0.8	0.8	0.9	1.4	1.3	0.7	0.4	0.7	1.2	1.8	2.5	
食料/アルコール/たばこ（前期比）	0.6	0.6	0.9	0.5	0.5	0.6	1.3	1.1	0.4	0.0	0.4	1.1	1.8	—	
（前年比）	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.8	0.8	1.0	1.1	0.9	0.7	0.5	—	
たばこ（前期比）	2.2	2.5	2.3	2.3	2.3	2.7	2.4	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.5	—	
（前年比）	-7.4	-7.7	-5.1	0.2	0.2	-6.4	-6.7	-5.6	-3.0	-0.9	-1.1	2.6	8.1	9.2	
エネルギー（前期比）															

注：消費者物価の前期比は季節調整後。コア消費者物価は食料・アルコール・たばこ・エネルギーを除く。出所：Eurostat

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。